

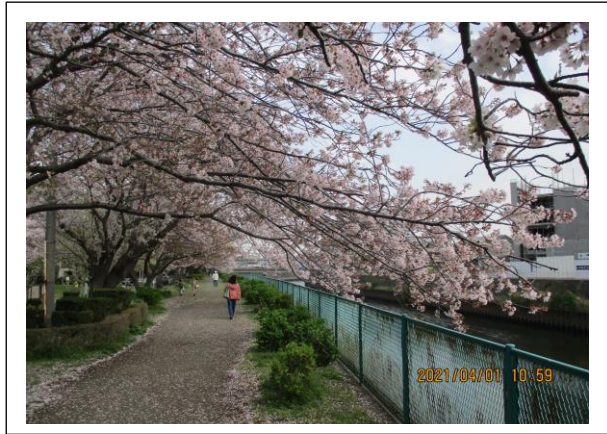
境川の右岸の桜並木

八柳 修之

我が家から最も近い桜の見所は、境川右岸、奥田橋～新川名橋～大道橋間の桜並木である。スタートは奥田橋。しばしばウォーキングの例会の出発地となる奥田公園に通じる橋から、境川沿いの右岸の桜を新川名橋、大道橋まで約 600m 弱の桜並木である。



奥田橋から境川右岸下流を望む

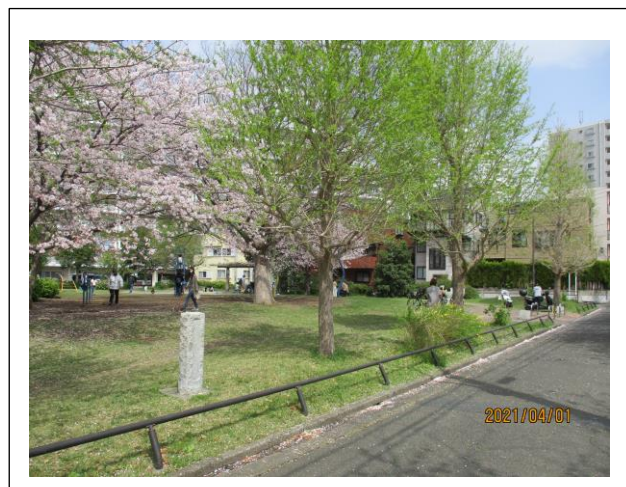


奥田橋脇から桜並木が始まる。



この桜並木は昭和 60 年 3 月、藤沢湘南ライオンズクラブによって植樹された記念碑があることを今回、注意深く歩いて初めて知った。景観は守るだけではなく創るものでもあることを改めて知った。奥田公園の広場、市民会館、秩父宮体育館、ヨーカドーや大型マンションを含む一帯は、境川の氾濫原、湿地でかつて水田が作られていた。深田や泥田が多く、耕作には田下駄も使われていたという。昭和 58 年の大雨ではイトーヨーカドーの地下が浸水し、ボートで運ばれた人もあったとの事である。（「藤沢市の地名」日本地名研究所編、藤沢市）。また石上にお住いの長津豊

氏によると、この湿地帯には片瀬山の開発時に大量の土砂が運ばれ埋め立てられたとのことである。



朝鮮人帰国記念碑 右は記念樹

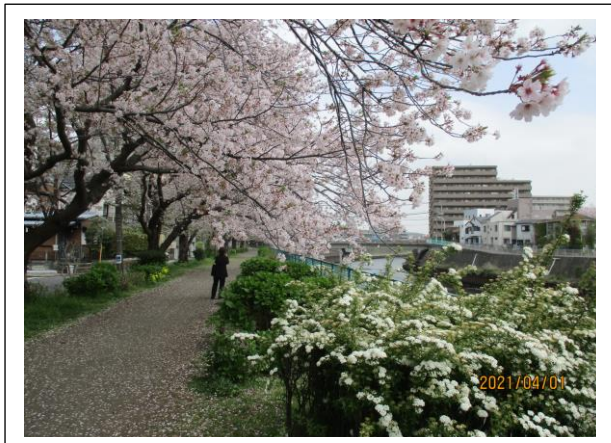
奥田公園の東側斜面には湘南ふじさわウォーキング協会の創立 20 周年記念時に植え替えられたエゴノキの

記念樹があるが、土壌が合わないのかひよろひよろとしていた。

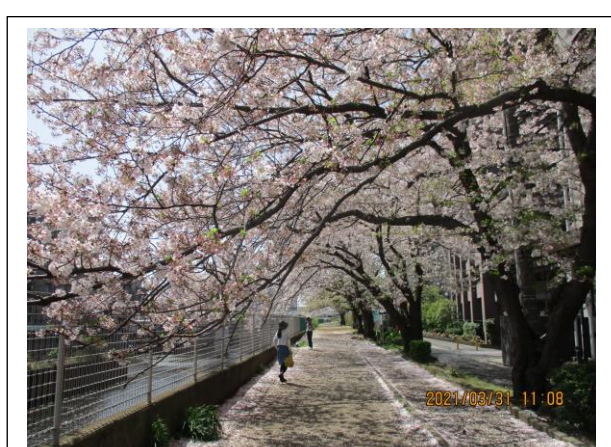
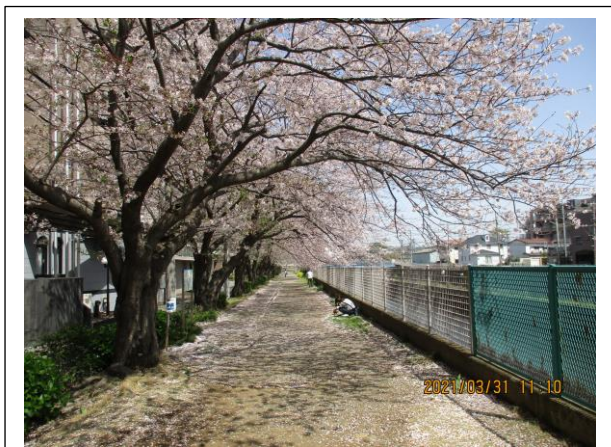
そして今回、初めて気がついたことだが、子供広場の一角に、「藤沢市朝鮮人帰国記念碑」と読める御影石の石碑があることを知った。この記念碑は1960年1月、藤沢市の在日朝鮮人連合会傘下の藤沢市連合会が記念植樹した際建てられたものである。木の名前は分からないが3本の木は順調に育っている。

朝鮮人帰還事業は1950年代から1984年にかけて行われた在日朝鮮人とその家族による日本から北朝鮮への集団的な永住帰国あるいは移住であった。地上の楽園と宣伝され約9万人もの人が帰国したが、帰国した人々は最下層民として位置づけられ悲惨な生活を送った。(Wikipedia)

この碑を建てた人々とその家族はその後どのような生活を送っているのだろうか。碑は風化するとともに人々の記憶も風化していく。



新川名橋近くに「境川 海から4 km 海抜6.8m」の表示板があった。対岸に黄色い菜の花畑が見えたので新川名橋から左岸を歩いて菜の花を見に行ったら。菜の花畑越しに右岸の桜を眺めるのもGOODであった。新川名橋は南藤沢の東電から鎌倉に至る県道32号線が出来たときに架設された新しい橋である。大船からの柏尾川との合流点である。餌をやる人がいるのか橋の下にはソウギョがいつも群がっている。





東奥田公園に桜の木があることを思い出し、藤沢ホテルの角を曲がって寄って見た。保育園の子供たちが元気に遊んでいた。元気もらい再び川岸に戻り、桜を眺め大道橋に出て約 600m の桜道は終わった。ここから先は JR 東海道線が通り先には進めない。

アンダーパスにする計画はなさそうだ。 (完)